**曹洞宗大本山總持寺・ニコニコ法話　　　　　　　　　　　　　　　　　　令和6年7月**

み祭り

**本山布教教化部長　花和浩明師**

毎年7月17日～19日にかけて、大本山總持寺では「み霊祭り」を開催します。この催しは、戦後すぐに戦没者の供養を目的として始まり、後に鶴見鉄道事故の犠牲者を慰霊する目的が加わったと伝えられています。今日、鶴見の夏の風物詩としてすっかり定着し、毎日万を超える人びとが集まる一大イベントとなっています。

現在の「み霊祭り」は、初日のみ山門施食法会が行われ、3日間を通して、「納涼盆踊り大会」と「万灯供養」を同時に開催します。

「万灯供養」は、ご希望される皆様に、小さな紙の灯籠に供養したい方のお名前や戒名を書いていただき、参道のいたるところに並べます。夜のとばりが落ちると、無数の灯火の明かりが、夏の夜空を優しく厳かに照らします。

　一方、「納涼盆踊り大会」は熱気溢れんばかりの様相となります。大駐車場中央に櫓を組み、そこで本山の修行僧が、大きな掛け声をかけながら盆踊りを踊ります。その周りを大勢の老若男女が幾重にも取り囲み、真夏の暑さも忘れて、盆踊りに熱中します。普段、厳しい禅の修行に勤しんでいる修行僧たちにとっては、修行のこともしばし忘れて、皆と心から楽しみあえる時間です。

　同じ本山の境内の中に、露店や盆踊り会場のにぎやかな雰囲気と、万灯の厳かで心静かな雰囲気が混在します。これが「み霊祭り」ならではの特徴になります。しかもお互いが邪魔をせず、不思議に融合して独特の雰囲気を醸し出します。

万灯に照らされた参道をゆっくり歩いていると、奥から聞こえる盆踊り会場の賑わいが、亡き人との楽しかった日々を思い出させてくれます。また、盆踊りの賑わいの中でふと遠くに目をやると、ほのかな明りに照らされて浮かび上がる伽藍の陰影が、この行持が尊い仏教行持であることを教えてくれます。

　「み霊祭り」は、亡き人びとと今を生きる人びとが共に本山に集い、時空を超えて絆を深め、新たな仏縁を結びあう、だれもが心から楽しめる行持です。